

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。
無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2013, 沼野充義

The University of Tokyo / Todai OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”
Copyright 2013, Mitsuyoshi Numano

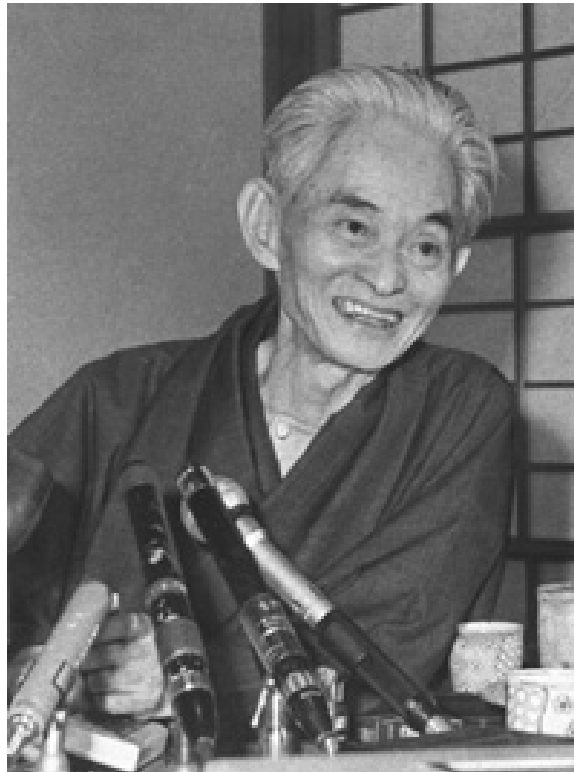
文学と越境—〈あいまい〉な 日本に境界はあるのか？

東京大学 朝日講座 2013年度
境界線をめぐる旅

2013年10月21日 沼野充義(東京大学文学部
現代文芸論 / スラヴ語スラヴ文学研究室)

1. 二つのノーベル賞受賞講演

(1) 川端康成 「美しい日本の私」(1968)
英訳 *Japan, the Beautiful, and Myself*



*

ご提供：朝日新聞社

(2) 大江健三郎 「あいまいな日本の私」(1994) 英訳 *Japan, the Ambiguous, and Myself*



*

ご提供:朝日新聞社

三人目の受賞者は出るだろうか？ 村上春樹？



Image by Galoren.com, from Wikimedia Commons (2013/12/11)
([http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Murakami_Haruki_\(2009\).jpg?uselang=ja](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Murakami_Haruki_(2009).jpg?uselang=ja))
CC BY-SA 3.0

大江健三郎の言う **vague** と **ambiguous** の違いは？ (1)

- * **vague**について

- * 「川端康成は、『美しい日本の私』という講演をしました。それはきわめて美しく、またきわめてあいまい〔ヴェイグ〕なものでありました。(中略)川端が、おそらく意識して選んだあいまいさは、その講演のタイトルがあらかじめ示していました。それは日本語で「美しい日本の」という、その助詞「の」の機能によっているのです。」(大江健三郎『あいまいな日本の私』、岩波新書、1995年、p4より)

大江健三郎の言う vague と ambiguous の違いは？ (2)

- * ambiguousについて
- * 「私は(…)同じあいまいなという日本語をambiguousと訳したいと思いますが、それは私が自分について、「あいまいな[アムビギュアス]日本の私」というほかにはない考えるからなのです。
- * 開国以後、百二十年の近代化に続く現在の日本は、根本的に、あいまいさ[アムビギュイティー]の二極に引き裂かれている、と私は観察しています。のみならず、そのあいまいさ[アムビギュイティー]に傷のような深いしるしをきざまれた小説家として、私自身が生きているでもあります。」(大江健三郎『あいまいな日本の私』、岩波新書、1995年、p8より)

2. 定義とは境界を定めることである

- * ある一つの形容詞によって日本を修飾すること＝定義
- * 「美しい日本」(内) ←→ 「美しくない(?)世界」(外)
- * 定義 英語 definition 語源的にはfinis(ラテン語で「終わり」「境界」の意味)を定めること
- * フランス語definition、ロシア語определениеなども同じ
- * 境界を定めると、その内にいる自分と、外にいる他者を区別することになる。
- * では、「あいまい」は定義になるか？

3. 単一の境界によって作家は定義されるだろうか？

夏目漱石は日本の作家か？

あるいは夏目漱石は**どのくらい**日本の作家か？



20世紀以降、「定義しにくい作家」は 珍しくない

その₁ フランツ・カフカ
プラハに生きた、ドイツ語で書くユダヤ人



その2 ヴラジーミル・ナボコフ

ロシア出身、アメリカで国際的名声を得たロシア
語・英語バイリンガル作家

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました。

写真「蝶を採集するナボコフ
(1966年、スイス)」

その3 カズオ・イシグロ

日本生まれ、イギリス育ちの英語作家



Image by Mariusz Kubik(2013/12/11)
(http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kazuo_Ishiguro_by_Kubik.JPG?uselang=ja)
CC BY-SA 3.0

しかし、人の行き来、言語的越境は現代に始まったことではない。万葉集の歌人、山上憶良も百済からの帰化人であるとの説がある

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

写真：JA西日本桜井線ラッピング車両
「万葉まほろば号」の山上憶良像

4. 現代日本の「越境」作家たち

(1) リービ英雄

アメリカ出身、日本在住、中国を探索する日本語作家



*

写真：リービ英雄氏

4. 現代日本の越境作家たち

(2) 多和田葉子

ドイツ在住、日本語・ドイツ語バイリンガル作家



*

写真:多和田葉子氏

日本文学の越境＝国際化？

二つの方向性

- * **(1) 内から外**

- * 日本作家が外に出ていく

- * A. 大部分の場合は、英語を初めとする外国語に訳されて。村上春樹がその代表。

- * B. 外国語で書く場合。多和田葉子がその代表。「母語の外に出て書く」ことを、多和田は「エクソフォニー」(exophony)と呼んだ。

(2) 外から内

- * 外国人（日本語を母語としない人たち）が日本語を習得して、日本語作家となる。最近増えている。
- * 例えば——
- * リービ英雄、アーサー・ビナード、楊逸、シリン・ネザマフィ、田原

日本文学は大相撲のようになるか？ 日本文学はイチローを世界に送り出すか？



Image by FourTildes, from Wikimedia Commons (2013/12/11)
(http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hakuho_2012_January.JPG?uselang=ja)
CC BY-SA 3.0



Image by Keith Allison, from flickr(2013/12/11)
(<http://www.flickr.com/photos/keithallison/5712089370/>)
CC BY-SA 2.0

結び 境界をめぐる二つの物語

(1) いくつもの境界が一人の人間(作家)の中で交差していること

(2) 人間(作家)は必ずどこかで境界を越えて生きていく存在であること

最後に質問(おまけ): 村上春樹がノーベル賞をとったら、その記念講演は「**どんな日本の私**」になるか?